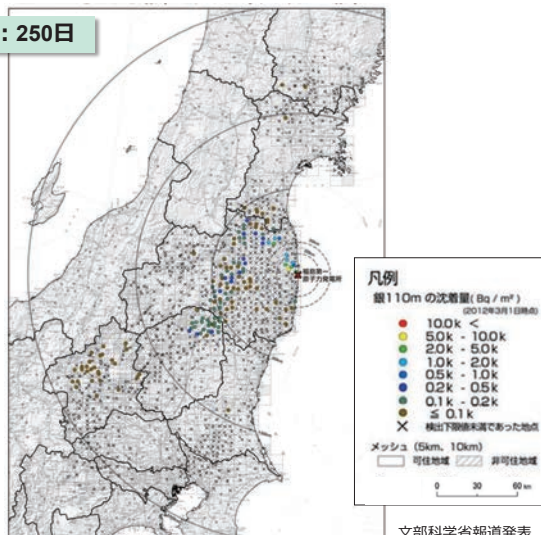


銀110mの土壤濃度マップ (平成24年3月1日時点)

半減期 : 250日



Bq/m² : ベクレル/平方メートル

文部科学省報道発表 平成24年9月12日

平成23年12月から平成24年5月にかけて行われた土壌調査では、福島県を中心とした東日本の広い地域において、可搬型ゲルマニウム半導体検出器を用いた in-situ 測定（下巻P23、「セシウム134、セシウム137（広域）」）により、放射性核種の土壌沈着量が測定されました。

平成23年6月に行われた国の土壌調査では、東京電力福島第一原子力発電所から100km圏内及びその圏外の福島県西部の土壌試料を採取し、γ（ガンマ）線放出核種（放射性セシウム、ヨウ素131、テルル129m、銀110m）について核種分析が実施されました。

その結果、テルル129m（沸点1,390度）及び銀110m（沸点2,348度）が比較的広範囲に検出されました。

本資料への収録日：平成25年3月31日

改訂日：平成28年1月18日